帝国在郷軍人会小銃射撃場監的壕 （コラム「まちの貴重な文化財」）

読みもの・コラム

投稿者：:

Posted on : 2021-10-1 10:00:00

広報ふらの・コラム「まちの貴重な文化財」No.4。
10月号のテーマは帝国在郷軍人会小銃射撃場監的壕です。

FURANO CULTURAL ASSETS

04 まちの貴重な文化財

帝国在郷軍人会 小銃射撃場監的壕（かんてきごう）

1937年(昭和12)建造　下五区 山部東21線

後世に遺すべき戦争遺構

下五区と山部地区に、後世に遺したい戦争遺構があります。昭和12年に帝国在郷軍人会が設けた小銃射撃場の監的壕で、帝国陸軍第七師団の指導・支援の下、在郷軍人会員と徴兵検査前の青年学校生徒らがここで射撃訓練を行いました。

監的壕は、当たり外れを報告する監的手が安全に控えるための的場です。富良野の監的壕は、幅約15m、奥行き約3m、高さ約2.5m、鉄筋コンクリート造の箱型構造物で、上部に3基の的を掲げる大きな窓穴があります。射撃手は壕から200m離れた農地の射場から伏せ撃ち発射、壕内の監的手が的を鏡で確認し、旗を振って着弾位置を知らせました。跳弾等の被害防止のため、壕は必ず山や丘陵の麓に設置されました。終戦までの間、射撃訓練は農閑期の春と秋に行われたそうです。

＊壕は安全ではないため、近寄らないよう注意ください。

問 富良野市博物館 ☎42-2407